



**f-haiku**  
**2015**

Ferris University



# f-haiku 2015

Ferris University

時の備忘／中村義和 ……	1
息吹／佐々木裕雄 ……	2
木通／北野貞雄 ……	3
森の馬／川井京子 ……	4
道／大越千代子 ……	5
水平線／梅津志保 ……	6
長い日向ぼっこ／井上雪子 ……	7
蔵の町／池田 博 ……	8
ジャムになるまで+後記／吉野裕之 ……	表 3

時の備忘  
中村義和

車窓から堀川見えてボラの列

丸雀木枯らし届かぬ軒の下

空澄みて友が指さす筑波山

柚子贈る鍋や風呂にと声高に

霜月やあるじ無きとて柵換え

吐く息を見てはまた吐く冬になり

一面の落ち葉固める夜の雨

松の古葉採り終えながむ歳の暮

ひよどりが飛び去りし後庭静か

つかの間の山の向こうの冬茜

大根の若葉選びて菜飯かな

何事も無きこそよかれ去年今年

息吹  
佐々木裕雄

千両の実を啄ばみて食ひにけり  
草むらの葉に青き花冬の蝶  
釈迦堂や銀杏黄葉の島に立つ  
たうたうの寒の水の音清々と  
落葉踏むしあはせの音の森の道  
年流る霞んだ花の文を手に  
熟れ柿を目敏き鳥が待つてゐる  
柔らかな会話溢れる初詣  
ひとつ咲き生き生き放つ帰り花  
春めきてゆるりと蕾膨らんで  
参道にひとつ水仙立ちにけり  
土に射す日のやはらぎて芽突き出す

木通  
北野貞雄

永き日や路地裏にまだ子らの声  
水仙や思い思いに立ち話  
靴底に弾み感じる花の屑  
黄落や腰で分け入る道なき道  
気が付けば片蔭歩く五月かな  
始発駅夜長の端を急ぎをり  
夏やねえ大阪弁で女言う  
野分あと倒れしままの萩咲きぬ  
明けやすしまだ灯の点る赤提灯  
蔦たぐり木通ひとつを採りにけり  
立ち昇る湯気も味わう煮大根  
天高し終の住家の抽選日

森の馬  
川井京子

鹿の棲む山あひの花まんかいに  
六月の葎をあざなふ男たち  
川筋はシネマ帰りや花は葉に  
法螺貝の音に失ふ百舌鳥のこえ  
五月来て尻まるまると森の馬  
数珠玉や跨げるほどの川の幅  
をりふしに見あぐ卯の花くだし哉  
クラシックカーに無音の雨や冬隣  
滴りのちさき水輪の無謬かな  
糞<sup>まり</sup>ゆっくりしずめる冬の日本海  
鹿垣や紐といて入る登山口  
鎌倉のざわめく杜の破魔矢かな

道

大越千代子

花盛り黄色い声と髪飾り  
パチクリす行くえみつめし秋の暮  
絹さやが虫食いだすや時終る  
路地の奥はきだす日々の落葉かな  
戸袋のヒナが親よぶわずかかな  
柿の木の葉っぱがゆらゆら茜色  
カタツムリ太陽光と競争す  
色づきつ満天星つつじと少女かな  
秋うらら法話の集いコックリし  
はるばると灯り遠のく冬の空  
到来の新米研いでおおむすび  
ランランと太陽光や冬木立

水平線  
梅津志保

力込め卵割るなり豊の秋  
襟巻を二重におんな水平線  
脚立貸す隣家の実り秋日和  
小脇にも抱える道具冬掃除  
秋の駅集まってくる背番号  
年暮るる最後尾へと並びけり  
脇道の残雪踏み行くおとこかな  
立ち上がる夜明けの海辺どんどの火  
壊されし家の跡には霜柱  
ベランダに雨の匂いや春の夜  
影追えば鳥の着水冬の川  
うららかや友の文から封を切る

長い日向ぼっこ  
井上雪子

麦わら帽子（ふたつ）をかう日なり  
始めからストーブ置かれず窓から星  
ゆるやかに白き航跡秋の海  
来るはずがない夜のそれは曇かな  
月をみる時の石かな老いつつある  
長い日向ぼこや七才の傷を解く  
レジ袋提げ照柿のもう少し  
ハワイにも雪ゆきという語は綴じてあり  
こんがりと表裏なくお雑煮  
オリオンよ急ぐな急ぐな春めきぬ  
普段着に微かに淑気残りけり  
桃の花のいる満ちたりゆうまぐれ

蔵の町

池田 博

庭球のラリーの音や昼の月

スポーツジム出で虫の音に囲まるる

法螺貝が響く駅中秋うらら

吾が前を過ぎゆく影や秋の蝶

菊かをる順番待ちの蕎麦屋かな

船釣りの嘔吐したるや秋の波

バスを待つ馬曲温泉一位の実

一塊の櫛落葉の雨舗道

ぬつくりの入日取り込む紅葉山

焼諸の試食してみむ蔵の町

目の前の眉間皺寄すマスクかな

大寒の激辛カレー完食す

●ジャムになるまで

退屈の時間を遣つて紅梅の  
落ちてゐて椿を逃げる形かな  
パンジーが父の歩幅を知つてゐる  
遠くから来た人の靴アマリリス  
梅の實のジャムになるまで二、三日  
涼しくてホームありけり原爆忌  
台風のあとの梯子は濃き影す  
食堂も馬も空腹秋日和  
波郷忌のどすんすパーマーケット  
三人が冬の話をしてみたり

後記

●  
吉野裕之  
Hiroyuki YOSHINO

『haiku 2015』は、フェリス女学院大学オー  
プンカレッジの講座「俳句の創作―日本語の  
すばらしさを学ぶ」（春学期・秋学期開講…  
各十二回）の二〇一五年度の受講者による作  
品集です。昨年度は文学部の「俳句創作を学  
ぶ」の受講者も参加しましたが、文学部の授  
業は隔年開講のため、今年度はオープンカレ  
ッジの受講者のみの作品集です。参加は本人の  
希望によるもので、八名の方が集いました。

授業では、毎回二句ずつ持ち寄り、講師を  
中心に批評を行います。また、現代の作家の  
句集をテキストに鑑賞を行います。

いずれも読むということですが、読むことと  
はつまり作ること、ということを実感します。  
そして、教室に豊かなことばの空間が広がっ  
ていくことを実感します。毎回たった九十分  
の時間ですが、ほんとうに有意義な時間です。

作品集もよいものになりました。多くの方  
に読んでいただきたいと思えます。

なお、作品は姓の逆五十音順に掲載してい  
ます。





## f-haiku 2015

2016年3月20日発行

フェリス学院大学 生涯学習課

〒245-8650 横浜市泉区緑園 4-5-3

tel = 045-812-8390 url = <http://open.ferris.ac.jp/>

頒価 = 300円 (税込)

制作：アトリエ云